

第 51 回多摩川流域セミナー 開催報告（速報版）

～未来の多摩川夢ビジョンづくり～

○日程：2018年11月23日（金・祝）10:00～15:30

○場所：東京都市大学 二子玉川夢キャンパス

○主催：多摩川流域懇談会

当日のプログラム

項目	時間	場所	参加者数
川の活動リレートーク ①源流域：源流体験・上下流の交流 ②中流域：多摩川ふれあい教室と多摩川での自由研究 ③中流域：宇奈根の渡し ④中流域：AI と web を用いた生き物調査 ⑤下流域：干潟館の活動 ～豊かな自然、河口干潟～ ⑥全域：防災への取り組み	10:00～12:00	東京都市大学 二子玉川夢キャンパス	一般参加者 37名 発表者 13名
基調講演 『多摩川（下）流域勉強会』報告 ～ TAMA-X 始動～	13:00～14:00		
ワークショップ・意見交換 「未来の多摩川夢ビジョンづくり」	14:00～15:30		
マップワーク・パネル展示	10:00～15:30	会場内ブース	

1. 「川の活動リレートーク」

● 源流域：「源流体験・上下流の交流」

(NPO 法人とどろき水辺・鈴木 眞智子氏)

多摩川上下流の交流として、NPO 法人とどろき水辺の鈴木氏より、小菅村でのキャンプ体験の企画活動の発表がありました。中下流から毎年 100 人以上が参加し、バーベキューや芋掘り、ニジマスつかみ取りなどの源流遊びを体験していたそうです。キャンプを受け入れてくれた歴代村長へ述べられた感謝とともに、これからも源流を大切にしていきたいとの思いを伺いました。



鈴木眞智子氏

● 中流域：多摩川ふれあい教室と多摩川での自由研究

(国分寺市立第三小学校 福田 太一氏、純平氏)

多摩川中流域での活動として、国分寺市立第三小学校の福田兄弟より、多摩川で行っている自由研究の発表がありました。福田兄弟は多摩川ふれあい教室に通ううちに生き物に興味を持ち、多摩川の昆虫における季節と成長段階の関係を毎月現地で調べているそうです。大人顔負けの研究、そして自作の多摩川生き物マップの紹介に、会場からは感嘆の声が上がりました。



福田太一氏・純平氏

● 中流域：宇奈根の渡し

(喜多見児童館 樋口 俊也氏・宇奈根の渡し子ども実行委員の皆さん)

多摩川中流域での活動として、喜多見児童館の樋口氏、宇奈根の渡し子ども実行委員の皆さんより、宇奈根の渡しの復活から 5 年目の現状の発表がありました。喜多見児童館の子どもたちは、かつて宇奈根に渡しがあったと聞き、復活を目指して地域の人たちと協力して渡し舟を製作したそうです。完成した舟「夢叶丸（ゆめまる）」は、対岸同士の川崎市長と世田谷区長をはじめ多くの方々を乗せ、宇奈根の渡しとして運行されました。小学 5,6 年生のみ候補となる船頭を目指し、4 年生から練習に励む子どもたちの姿が伝えられました。



樋口俊也氏・宇奈根の渡し子ども実行委員の皆さん

● **中流域：AIとwebを用いた生き物調査**
(東京都市大学・小堀 洋美氏)

多摩川中流域の活動として、東京都市大学の小堀特別教授より、市民の方々と協働で行っている最新技術を用いた生き物調査活動の発表がありました。生き物をスマホで撮影し画像を送信するとAIにより種が分類され、さらにwebを通じて専門家による種の判別が行われたうえで、日時・位置情報とともにデータが蓄積されるそうです。



小堀洋美氏

● **下流域：干潟館の活動 ～豊かな自然、河口干潟～**
(NPO 法人多摩川干潟ネットワーク 佐川 英男氏)

多摩川下流域での活動として、NPO 法人多摩川干潟ネットワークの佐川氏より、大師河原干潟館で行っている水辺の楽校の活動の発表がありました。河口に育まれる豊かな自然環境の中で、ハゼ釣りや干潟観察会などの活動を行っています。ハゼ釣りでは、仕掛けを作り、釣り、捌き、食べるところまでを子どもたちに全て自分でやらせようことで、自主性を養うことを重要視しているそうです。



佐川英男氏

● **全域：防災への取り組み**
(京浜河川事務所 羽澤 敏行氏)

多摩川全域に関わる防災への取り組みとして、京浜河川事務所の羽澤氏より、安全に対する意識づくりの発表がありました。近年多発する集中豪雨の事例をあげ、ハザードマップと実際の氾濫箇所がほぼ一致していたこと、いざという時のためにマイタイムラインの作成が有効であることなど、安全確保のための京浜河川事務所の取り組みが発表されました。

被災者の「まさか自分が被災するとは思わなかった」との声から、避難指示を実際の行動に結び付けるには災害に対するバイアスを取り除くことが重要であると参加者全員で認識し、災害・安全に対する意識を改めました。



羽澤敏行氏

2. 基調講演 『多摩川（下）流域勉強会』報告～ TAMA-X 始動～

（東京急行電鉄株式会社都市創造本部 山口 堪太郎氏）

多摩川流域でまちづくりを実施している東京急行電鉄株式会社から、山口堪太郎氏を講師として招き、多摩川の新たな活用方法について講演頂きました。東急のコンセプト「街全体がサステナブルで魅力的になれば、多方面の事業がうまくいく」を基にした都市開発について、会場である二子玉川等を例に紹介頂きました。

また、官民が連携した多摩川流域まちづくり勉強会を立ち上げ、多摩川流域に日本・首都圏の経済成長を牽引するポテンシャルがあるとして未来の多摩川の姿を議論していると報告がありました。その姿を目指した社会実験「TAMA-X」について、アウトドアオフィスの誘致やリバーサイド・マルシェ、自動運転バスなど、様々な先進的な試みが紹介されました。目標である 2025 年に多摩川がどのような姿になっているのか、会場の皆さんの期待に包まれた講演となりました。

講演後には多摩川流域まちづくり勉強会の座長である涌井史郎氏からコメントがあり、健全な社会の発展には健全な環境の維持は欠かすことはできないこと、経済成長のみではなく幸福度を高めることが社会の熟度を高めることにつながるということが伝えられました。また、多摩川に残された自然の活用方法にふれ、新たな利活用方法や減災を目的とした Eco-DRR に話が及びました。未来の多摩川の姿についてのクリエイティブな考えに、参加者の方々は熱心に耳を傾けていました。



基調講演者：山口堪太郎氏



涌井史郎氏

3. ワークショップ・意見交換 ～未来の多摩川夢ビジョンづくり～

午前の部の「川の活動リレートーク」、午後の部の基調講演を受けて、参加者の皆さんが6つの班に分かれ、未来の多摩川の姿を話し合いました。各班のメンバーは様々な世代・立場の人々がおり、それぞれの皆さんが大きな夢を持って未来の多摩川について活発に議論していました。様々な世代の参加者がいたにもかかわらず、景観面や環境面では同じ夢を描いている様子が見られ、世代を超えた多摩川に対する思いがあることが分かりました。

各班の議論の結果は、多摩川が将来目指す夢の姿「夢ビジョン」の案としてまとめられ、代表者による発表がありました。発表者の方々の「自らの班の夢ビジョンを伝えたい!」という熱い思いが伝わる発表に、会場からは大きな拍手が送られました。



ワークショップの様子



発表・意見交換会の様子

4. マップワーク

会場にはマップワークのブースを設け、休憩時間を中心に参加者の皆さんに未来の多摩川に関する意見・要望をふせんに書き地図に貼ってもらいました。多摩川の源流から河口までを表した地図には多くの意見が集まり、多摩川の各地に対する市民の方々の思いが目に見える形で示されました。



マップワークの実施風景



集まった意見の紹介

5. まとめ

多摩川流域懇談会は今年で設立20周年を迎え、継続して行ってきた多摩川セミナーも今回で51回を数えました。これまでの多摩川を振り返り、未来の多摩川のことを皆で考えた今回のセミナーは、未来への新たな一歩として皆の夢と希望に満ちたものとなりました。